

第 1 4 期第 1 回八尾市図書館協議会会議録

平成 1 6 年 7 月 1 5 日(木)午前 1 0 時～ 1 2 時 八尾市立八尾図書館

1. 出席者敬称略

森 弘和	八尾市生涯学習センター学習プラザ運営審議会
中浜 多美江	八尾市女性団体連合会
塩入 幸子	八尾市青少年育成連絡協議会
中村 恭三	大阪芸術大学建築学科
岩崎 秀	大阪府立中央図書館
本川 敏一	大阪市立中央図書館
柏木 順子	八尾市議会議員
長野 昌海	八尾市議会議員
隈 美智子	こぐま文庫
赤井 尚子	やお絵本の会

職員

森 卓	教育長
巽 完次	生涯学習部長
紀田 喬	八尾図書館長
南野 隆雄	山本図書館長
藤林 嘉明	志紀図書館長
谷口 正文	八尾図書館長補佐
葭矢 利夫	八尾図書館主幹
喜多 由美子	八尾図書館司書

- ## 2. 案件 議事
- (1) 委嘱状交付
 - (2) 教育長挨拶
 - (3) 会長・副会長選出
 - (4) 議事
 - 平成 1 5 年度事業報告
 - 平成 1 6 年度事業方針
 - (5) その他

議事内容

南野：おはようございます。朝早くよりご出席ありがとうございます。それでは定刻となりましたので、ただいまより第 1 4 期第 1 回八尾市図書館協議会を開催させていただきます。本日はご多忙のところ、ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

それではまず初めに委嘱状の交付につきましては、まことに恐縮とは思いますが、委員の皆様方の手元にご用意させていただいておりますので、よろしく願い申し上げます。

それでは今期第 1 4 期図書館協議会の委員をお願いいたしました皆様方をご紹介させていただ

きます。

(以下略)

それでは、開会にあたりまして森教育長よりご挨拶を申し上げます。

森： 皆さんおはようございます。今日は暑い中、また忙しい中、早朝よりお集まりいただきましてありがとうございます。日ごろは八尾市行政、特に図書館行政にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。今日は第1回目の八尾市図書館協議会ということでございます。

平成8年に3館体制になりましてから、図書館行政の充実を図ってまいりました。まだ、なおかついろんな点で努力しなければならない点はあるのでございますが、このような中で図書館サービス計画の策定を終え、今年度は大阪経済法科大学との提携等、より図書館サービスの充実を図っていきたいと考えております。しかしながら、中央図書館、あるいは八尾図書館の現在の問題、夜間延長、それ以外に平素の図書館運営等色々な課題がございます。

今日は15年度の事業報告をさせていただきますが、皆さまの忌憚のない率直なご意見を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

南野： ありがとうございます。教育長はこの後、公務が入っておりますので、退席させていただきます。

それでは会議次第に基づきまして、議事を始める前に、第14期図書館協議会の初めての会議でございますので、会長・副会長の選出をお願いいたしたいと存じますが、どのようにさせていただきますでしょうか。

司会者一任という声を頂きましたので、事務局より仮の議長を指名させていただきます。仮議長のもとで、会長・副会長の選出をお願いいたしたいと存じます。よろしゅうございますか。

それでは森委員さんをご指名させていただきます。森委員さんよろしく願いいたします。

森： 失礼致します。ただ今、仮議長に仰せつかりました森でございます。どうぞよろしく願いいたします。会長・副会長を選出させていただきますが、立候補、ご推薦されます方はおられないでしょうか。

ないようでしたら、私の方で推薦させていただきますよろしいでしょうか。

異議なしという声がございますので、会長に本川委員さん、副会長に塩入委員さんをご推薦申し上げたいと存じます。異議ございませんか。異議なしということでございますので、お二人にお願いしたいと存じます。どうもありがとうございました。

それでは恐れ入りますが、会長・副会長席に移動をお願いいたしまして、後の議事をよろしくお願いいたします。

本川： おはようございます。ただ今、選任いただきました本川でございます。13期に引き続きということでよろしく願いいたします。八尾市の図書館につきましては、先程の教育長のご挨拶の中にもありましたように、1月に図書館サービス計画が策定されておりまして、最終平成22年度目標に順次サービス計画の内容を実現をしていくということになっています。

この場での皆さんの活発なご論議につきまして、日常の図書館運営、サービス計画の実現に向けて少しでも役に立っていければと思っておりますので、皆様のご協力よろしく願いいたします。

それでは会議次第に沿いまして、本日の議事に入っていきたいと思います。平成15年度事業報告、平成16年度事業方針のこの2点につきましてはまとめて事務局の方からご報告お願いしたいと思います。

事務局：(略)

本川：15年度の事務事業報告と16年度の事業方針についてご説明いただきました。詳細な数字を含めてご報告いただきましたが、まず事務事業報告の方から、ご質問・ご意見についてお伺いさせていただきます。ご質問ご意見等はございませんか。

事務局：資料のご説明が遅れまして申し訳ございません。今回、事務事業報告書以外に「指数でみる八尾の図書館」というものをご用意させていただいております。これにつきましては、「日本の図書館2003」日本図書館協会が発行したものを加工しております。数字につきましては2002年度でございます。それぞれ八尾市の図書館が大阪府下でどのような位置付けにあるか、人口20～30万都市ではどのような位置付けにあるかといったことを指標で表したものでございます。1pにつきましては貸出密度、以下全国平均等を表しております。2pは登録率等の資料を載せておまして、以下八尾の図書館の位置付けを指標で表しております。

本川：今説明いただいた数字というのは1年前の数字といたしますか、14年度の数字ではございますが、これも参考にしながら、ただ今ご報告いただきました15年度の事務事業についてご質問、ご意見等がございましたら、お受けしたいと思います。

塩入：質問いいでしょうか。9pの障害者サービスのところですが、対面朗読が前年度に比べて55回も減っているということについて何か問題というか事情があるのでしょうか。

紀田：常時、ご利用いただいていた方が、図書館の方に出かけられなくなったという事情がありまして、その方はほとんど毎月ご利用いただいていたんですが、事情ができて来られなくなったというのが一番大きな理由です。

塩入：朗読ボランティアの登録は何名ぐらありますか。

紀田：八尾図書館では5～6名ぐらいます。その方々をお願いするという形でお行なっております。

塩入：利用に対しては足りているわけですか。

紀田：足りていますが、利用の裾野を広げる努力は必要だと思っています。

塩入：出張ではなく、ここに来られて朗読していただくということですか。

紀田：そうです。

柏木：1 pの登録者数が930人減ということから始まって、説明いただいていた時に、「減」という言葉がかなり耳に残ったんですが、これは全体的に何が影響しているのでしょうか。

紀田：八尾市が、平成8年に3館になりまして、平成9年から現在まで、3館体制でサービスを行ってきました。組織が固定した場合、利用が右肩上がりになるという統計が出ておりますが、それが3年で頭を打つのか、5年で頭を打つのか6年なのかということが統計的にはあるようですが、正確な分析というわけではございませんが、平成14年で8年経過して頭を打ったということがいえるかもしれません。右肩上がりが長く続いたのかというのは別の問題になると思いますが、14年度をピークに頭を打ったといえるかもしれません。これは世間の動向、景気、最近の子どもの事件などが影響するのかとか正確なことは出ていませんが、14年でピークが来て、15年度で実績が減になりました。16年度になり少々持ち直しています。この3館体制であれば、200万点という貸出点数を目標に、これをいかに維持していくのか、そのためにはどういうサービスを新たに展開していくのか、そういうことを十分検討しながら、14年度で200万点を超えた点数を維持することで16年度も頑張っていきたいと考えています。

柏木：今、ご説明いただきましたが、この八尾図書館が要因になっているということはないのでしょうか。私は八尾図書館に対する思いがあるんですが、ちょっと数字を確認しておりませんで、大雑把な部分でものを言っているんですが、その点はいかがでしょうか。

紀田：お渡しした以外にもこの分析するために資料がありますが、各館別の14、15年度の利用者数、貸出点数等を見ますと、八尾図書館の減率は最も少ないです。資料としてはでてきています。それはどういう理由でそのようになっているのか、細かい分析はこれからになりますが、八尾図書館の減率は最も低くなっています。

市役所のそばで、固定利用者が八尾図書館に根付いているのではないかと考えられます。

柏木：今のご説明では、老朽して使いにくいというのが要因ではなく、近くの人たちは使い慣れているので使い勝手がよい。それは影響していないということでしょうか。

紀田：数字的にはそうですが、ここはやはり使いにくいと思います。

今後は先程も言いましたように中央図書館を含めた4館体制、八尾図書館の再生というのは非常に重要な問題だと思います。

柏木：読み方が間違っていたら申し訳ありませんが、「指標でみる八尾市の図書館」で見ましたら、一人あたりの貸出点数は7.3でかなり上位を占めています。2 pに登録率がありますが、これを見ると登録率がかなり下の方に来ています。ということは登録者は少ないが登録している方の読書量が多いということでしょうか。もう少し裾野を広げるべきではないのでしょうか。

紀田：この見方はちょっと違ってきます。裾野を広げるのは「サービス計画」でも出しておりますが、大命題であることは確かです。しかし、この2Pに出している登録率ですが、少し異なっています。

各自治体によって出し方が様々であります。一度登録された方を累積しているところもあれば、八尾市のように実質登録率を出しているところもあり、一概には比較できないものになっていますので、指標としては不適切かもしれません。

柏木：ご説明を聞いていますと全体的には裾野を広げないかなぁという感じがします。私も協議会の委員になっていない時期もありましたが、10年ほど前からみていて、登録率の低い地域はいまだに低い。そのあたりの努力も含めて、裾野をどうやって広げていかれたのか、これから広げていかれるのか、そのあたりを少しお伺いしたいと思います。

紀田：共通した認識として、西郡、亀井・竹濑地区の方々の登録率が悪いというのは、その地区に住んでおられる方々が図書館に興味がないわけではなく、近くに施設がないというのが一番大きな原因であると考えています。そのために4館体制という形で裾野を広げていきたい。近くに図書館がないというのは行政的な不利益を被っておられるわけですから、その解消は市としてやっていくべきであるという考えは持っております。その間、移動図書館がフォローすると言いましても、来る日も時間も限られており、それほど拡大にはなりません。図書館としては、すぐに中央図書館というわけにはいきませんので、それまでは、子どもや高齢者など足の便を持たない方に本を借りていただくために、移動図書館を走らせています。子どもたちがおさない頃から図書から離れることのないような方策を持っていきたいと思っています。各学校に出向いて読書指導や読み聞かせも積極的に行うようにしていますので、小さいことからですが頑張っていきたいと思っています。

柏木：今おっしゃったように、私は竹濑・亀井地域ですが、安心したのは移動図書館の増です、救われた思いをしています。そういう意味では本の好きな方も結構いらっしゃるようです。今おっしゃったように、できるだけ足元に図書館をという努力をしていただきたいと思います。

塩入：勉強不足で申し訳ないんですが、どういうものを図書館に期待しているかということのをいろんな人に聞いてみました。ある方が、楽譜を置いて欲しいということをおっしゃっていました。そう言われてみたら図書館で楽譜は見ないなぁと思ったので、先程、事務の方に少しお尋ねしてみましたら、ウエディングソングなどごく一部のものは置いているとのことですが、若い人たちは音楽に興味がありますので、そういうものを置いていただいたら利用増になるのではと思うんですが、そういう楽譜は基本的に置かないんですと先程事務の方が言われたんですが、そういう規約はあるのでしょうか。

紀田：そういうことは一切ありません。

塩入：ないのであれば、青少年は音楽に興味があるので、いいんじゃないかなぁと思います。

紀田：図書館に足を運んでもらうとわかりますが、図書館は棚に並んでいる本の貸出だけではありません。貸出点数は利用の指標をみるためのものではありますが、あらゆるニーズに応えていくように心がけております。カウンターでこういうことしたいとか、こういう楽譜はないのかとか相談して下さい。貸出中や書架にあっても見つけれないケースなどもあるので、必ずカウンターでご相談下

さい。また、ない場合は購入したりすることになります。

塩入：特に決まりごとはないということですね。それでしたら安心しました。

中村：今までのお話と関連しますが、1pの過去三年間の実績を見ていますと、各項目ほとんど横ばい
です。これはこれでよしとする反面、今お話のあった登録率が19%弱になっています。去年作ら
れた「サービス計画」の目標では30%ぐらいということ。6年ぐらいの間にここまで上げよ
うという目標を掲げられているわけですが、どうも今のままいくと、19%のラインを超えるのが
可能かどうかということすら危うい状態ですね。

これをもう少し高める方策といいますが、18%と言いますと、単純に割りますと、1館あたり
6%です。ですから、あと2~3館つくってやっと30%に近づくという。単純に言いますとね。
明らかに人口に対して図書館の数が少ない。これは表からもはっきりと出ています。全域サービス
のやり方として固定館を何としても2~3館、それでも少ないぐらいです。もう少しそういった方
向を目指さないと、いつまでたっても水準を満たさないという気がします。そのあたりはどうい
うお考えでしょうか。

紀田：おっしゃるとおりです。「図書館サービス計画」では30%を目指していますが、これはあくま
でも中央図書館を建設するのが前提になっています。その中央図書館ができた後、分館でもいいか
ら図書館のない地域に広げていきたいと考えています。図書館としての計画であり希望であるわけ
です。

中村先生にも相談させていただきましたが、4館体制、中央図書館が先なのか、分館が先なのか
という選択肢があったわけですが、中央図書館という形をサービス計画の中でうち上げ、市の方と
しても病院の跡地利用ということで中央図書館論争と言うものがあり、それに飛び乗ったというこ
ともあります。今の時点では中央図書館の建設をお願いしていくという形を選択したので、その方
向で進んでいきたいと考えています。そうではなくて、分室を先という形を展開した場合、図書
館としての姿勢が当初間違っていたのかということになりかねません。それが怖いわけではありま
せんが、せっかく盛り上がりつつある中央図書館の建設構想というものをまずある程度煮詰めて、
突き詰めていきたいと思っています。おっしゃるようにこの30%という数字はなかなか難しい数
字であると認識しています。

中村：中央図書館か分室かという天秤にかけるのではなく、市域全体にくまなくサービスするという大
前提のためにどういう方法があるかということで考えていけばいいわけで、その方法として中央館
もいるし、中央館については書庫がパンクしており本の置き場がないという状況から中央館が必要
であるということもありますが、方や全域サービスを行なうという意味では仮に中央館ができたと
しても必ずしも登録率が30%になるという保障がありませんし、どこにつくっても依然として格
差は残ると思います。地域の格差を無くすということが、ある意味で優先されるとした複数館とい
う言い方で、「あと複数館必要だ。もちろん中央館を含んだ。」そういう方針にある種、転換するこ
とは可能ではないでしょうか。

紀田：「サービス計画」の中では中央館ということを出していますが、これで終わりということではな

いという形で入っています。引き続き全域サービスについてはやっていなければならないと思っています。

中村：もうひとつ全域サービスの方法として、8 pのところ、移動図書館の貸出点数がサービスポイントごとに出ていますが、移動図書館で一年間で、10万冊を貸し出しています。これは全体の5%になります。移動図書館というのは本来図書館のない地域にサービスするというものですが、サービスポイントについて個々に見てみますと多いところでは1万冊を超えています、少ないところでは1000冊に満たない。しかも年間22回も回っているわけです。22回も回っているということだと1回行って少ないところでは1回40冊ぐらしか出ない地域もあります。40冊といえますと、一人4冊くらい借りるとして、少ないところでは10人くらいです。効率がいい悪いというところも必ずしも言えないことではありますが、移動図書館というのはある種大事な方法ですので、回る場所、サービスポイントの見直しや、時間帯について、昔のように平日は人がいないというような状況もありますので、もっと人の集まるような場所にステーションを変えたりとか、行く時間帯を変更するとかいうことで、当面、移動図書館をもっと活用する方法もあるのではないのでしょうか。おそらくこれは伝統的に何十年とここを使っているという意味で変更は中々難しいと思いますが、見直しはいかがでしょうか。

紀田：担当者間でもステーションの配置については意見が出ていますが、なくすということは中々できません。水・木・金・土の週4日間、1日2～3箇所ですが、飽和状態になっているかというところがありますが、今おっしゃられましたような方法で、少ないところについては統廃合も含め、様々な部分から担当者間で検討しています。少ないから廃止というのは困難であり、それに対してどう対処するかということについて現在検討しているところでございます。

本川：ご意見が、今後の話も含めて出ておりますので、16年度の事務事業概要も含めて全体についてご意見・ご質問をお伺いしたいと思います。

柏木：中村先生がおっしゃったように、中央図書館構想の中で、分館を増やしてはと私も思います。以前は学校図書館を充実させてその地域に開放させたいと思いを持っていましたが、今回学校図書館を視察させていただいて、全ての門が閉じられており、今の社会状況の中で、そういう状況になっているがゆえに、地域に図書館が必要かなと思う。そういう状況が変わっているということで、分館的な発想についてもそのあたりももう少し考えていただきたいと思います。

紀田：学校図書館との連携という形もありますが、今おっしゃったように門がすべて閉まっている状況です。カギの管理も大変な状況で、いつまで続くのか分かりませんが、学校図書館との連携ということとは別に、我々は公共図書館という立場ですので、分館構想ということも十分検討していかなければいけない時期に来ていると思います。検討項目に入れて、実現の方向で進めたいと考えています。

隈：資料費の件ですが、特に図書購入費ですが、一昨年から去年で300万ほど減っており、今年がまた減っています。毎年減っていますが、減っていることが利用者減になっているということも考えら

れます。今の状況が厳しいのはわかりますが、資料費は図書館の「命」だと思いますし、一定の質を保つためにはそこに予算がきちんとしていないとしんどい。例えば中央図書館が出来たとしても、資料費をどの程度とって頂けるのか、それが一番のかなめになっていると思いますが、その辺はどのようにお考えですか。

紀田：「資料費命」というのは認識しております。ここ3年ぐらいは財政当局から例外なしで、5%マイナスシーリングということが言われています。生涯学習部の中でも部長にもご理解いただき、部としての別枠予算を図書館の資料費に頂いたり、そういう形で5%以内、今年の場合ですと約2%に押さえることができましたが、これからもマイナスシーリングが続けば、そういう図書館だけ特別というのは難しいという状況が生まれてきます。図書館内部としましても光熱費とか様々なものを削減しまして、決算では3%以内ぐらいの減額で、ここ三年間ぐらいは推移しているという状態でございます。

中央図書館とか分館というような構想になりましたら、3館でこれだけの予算があり、中央図書館ができて、規模が大きければ大きいほどそれに付随する予算は、毎年出てくるわけです。そこを確保して、中央図書館なり分館なりの構想で、我々としては作るだけではなく、作った後もこれだけの予算が毎年必要になるということを十分に訴えていきたいと思っております。

中村：「指標でみる八尾市の図書館」は資料として貴重なものだと思いますが、面白く見させていただいていますが、数字が多すぎて、見慣れている人にとってはそれなりに意味があるんですが、難しい。各項目ごとの解説をするのと、その中で八尾市の図書館の評価を文章で表現していただくと、もっと有効に活用出来ると思いますので、できれば、追加してやっていただきたいと思っております。

この中で、11pに正規職員の割合というのがあります。こういうのを見るのは珍しいことですが、見事に八尾市は下の方に位置しています。正規と臨時/嘱託の比率でみると、上の方は正規の人が多くて足りないところを臨時/嘱託の人が補うという体制があるのですが、八尾市は嘱託の人がメインで正規の人がバックに回っているのではないかと思われるぐらい比率が逆転していますが、府下でも下の方にいます。しかし他の実績は府下でも高いところにいるのに、この職員の割合というのは八尾市の事情があっただけでこうなっているのでしょうか。

紀田：八尾図書館1館から平成8年に相次いで図書館が建ち、3館体制になりました。そのときに政治的な判断があったのだと思います。3館で55人の体制と言う中で、司書資格を持った嘱託員で対応しようという政治的な判断があったのだと思う。それ以来、この体制でサービスを提供しておりまして、おっしゃるように、司書資格をもった嘱託員が中心になって運営しているのが現状です。

中村：厳しい財政は八尾市だけにはかぎらず、どこも同じ状況だと思います。それにも関わらず、どこの市も頑張っています。せっかく八尾市の図書館がここまで盛り上がりつつある中において、やはり職員は重要な要素があります。こういう表はなるべくこれからどんどん外に出して頂いて、もう少し改善できる方向に利用されたいという思いがあります。

ひとつだけ、いくつかの表では、上位にいる方がよさそうな並べ方になっているんですね。ところが、その中で、5Pの「床面積あたりの貸出点数」というのはありますが、この中で、八尾市は2番目に来ていますが、これは見方によって、八尾市は非常に有効にフルに活用しているという受

け止め方をされるのか、どこの図書館も狭すぎて、利用者がゆっくり本を読んだりするスペースが少ないだろうし、ゆとりのあるところもないということを表していると思います。この表の読み方を上に来ているのは必ずしも良いわけではない。それとか、7pの「開架の回転率」ですね。これもかなり高いんですが、これも見方によっては、効率面から言えばいいわけですが、逆に利用者が行くといつも読みたい本がないとい、図書館に行っても自分の読みたい本がないという、回転率が高すぎるというのは、図書館離れを起こす要素にもなります。そういうようなこともこれで現れています。ぜひとも評価を付け加えて下さい。

紀田：これは前回からの要望であり、全国的なレベルや府下からみてどのような位置付けになっているのか分からないという要望を頂き、作らせて頂いた。中村先生からご指摘いただいたように数字の羅列では分かりにくいということですので、今後とも改善させていただきます。

開架の回転率につきましても八尾図書館は閉架が多いのですが、これについては開架面積の少なさが弊害になっていると思います。

中村：見方の説明は必要だと思います。

赤井：中村先生に教えていただいて、この資料はとても見やすいなと思いながら、どうやってみるのかということが分かりませんでした。自分で見ると間違った判断をしがちであるので、解説をつけていただくとありがたいと思います。

先ほど開架回転率が出ましたが、私の友だちが八尾図書館ですが、いつ行っても映画等の影響もあります。「冬のソナタ」とかに影響されて本を借りにいかれる方がとても多いみたいです。図書館に行くんですが、ないから、それであきらめて帰ったという話を聞きました。「書庫にある場合もあるのよ。インターネットで検索しても分かる。」そういう見方について積極的に聞いていただけたらいいんですけども、中々ないんだわと思われてあきらめられる方も多いので、もったいないと思う。折角そういう人が、普段は本を読まないんだけど、ちょっと面白くなっていくということもあり、どういうふうに宣伝したらいいのかとちょっと考えたんですが、図書館にはどういふふうに探したらいいのかという案内はありますが、図書館に来られない方も例えば市政だよりならばご覧になられていて、施設の図書館案内があるところに、ベストテンの案内だとか、ちょっと気の引くような文言でもあればなあと思います。

それとは直接関係ないことですが、ちょっと気づいたことですが、本を返す時に、バーコードをスキャンしますね。その時、確かに返したんですが、次に行った時に本が返却されていないと言われて。前にも一度そういうことがあったんですが、その時の説明では、スキャンしたつもりでも出来ていなかったかもしれないということでした。私も本を探しに行ったら、書棚にあったんですね。「これじゃないですか。」とカウンターに持っていったら、その本でした。返却する時にどのようなシステムになっているのでしょうか。1冊づつ確かめられるのでしょうか。それともパッパッパとやって落としてしまうことがあるのかと思って、そのあたりが気になりました。

紀田：図書館に来られたときに、本がないから帰られるというのは、図書館のカウンターで明るく対応できるものがある、声をかけやすい雰囲気、図書館として努力しなければならないと思います。

本の返却も問題ですが、音と画面の表示と持ってこられた本の冊数を確認するようにしています。

ただ、昼窓等で慣れないものが対応することがありますが、時間がかかっても確実に処理するようにしておりますが、完璧であるとは言い切れない場合があるかもしれません。延滞の通知をさせていただきますが、返したのに連絡を受けたという問合せが全くないわけではありません。図書館の信頼にもかかわってくる問題ですので、慎重に対応しなければならないと考えています。トラブルがあった後の対応については確認しあって、事故を未然に防ぐということはこれからも続けていかなければならないと思います。

隈：16年度の事業概要のところに、「図書館サービス計画に基づき可能なサービスから順次…」とありますが、事業内容のところに具体的に例えば今年度は何をやるかというようなことは出ていません。これは動きがないからということですか。

紀田：具体的なことは記しておりませんが、祝日開館等のことにつきましても、館内で検討委員会を立ち上げています。

隈：検討会が動いているということですか。

紀田：動いています。

教育長の方からも話がありましたが、大阪経済法科大学と連携しまして、大学の特化した資料も借りられるという相互貸借についても動いております。そういう形の連携も動いています。祝日開館等につきましては、検討だけという形では他からみて一歩も進まないの、まずは今年度については検討委員会の中で一度祝日を開館してみようという話もありまして、11月3日の文化の日が適当ではないかということで、開館してみようというような方向で議論が進んでいます。

本川：ほかに何かありますか。

岩崎：16年度の事業概要にも出ていますが、東大阪市と柏原市の両市との相互協力ですが、現状、推移とこれからの展望みたいなものはありますか。

紀田：以前は3市の連携を密にとっていました。最近、柏原市は新館の建設ということもあり、東大阪についてもちょっと行き来がなくなっていますが、資料の相互利用は古くからおこなっています。柏原市には新しい図書館ができ、体制も一新されると聞いています。それができた後、3市での協議が進める時期になるのではないかと考えております。

隈：3館でそれぞれ行事をやっていますね。そのことに関してなんです、例えば八尾でやっている行事が他館には伝わっていないんですね。広報には出ていますが、後になって、「あったんなら行きたかったのに。」ということをよく聞きます。3館それぞれおこなっている行事について、分かるように張り出してほしい。前の協議会の時にも話が出ていたと思うんですが、それぞれの館の行事は市民にとれば行きたいと思っていても終わってしまって残念だったわという声を聞きますのでよろしく願いいたします。

紀田：おっしゃる通りで、広報に載せていると言えども各館で対応するという形にとらわれすぎているというきらいもありますので、周知できるように3館で連携しながらやっていきたいと思います。

柏木：議員の立場で、本来は議会で言うべきことですが、全体で情報が認識ができたらなと思うのであえてこの場で発言します。9pの学校貸出については6学校（園・保育所）増になっていますね。おそらく蔵書を整理された関係で、本が学校の中から少なくなったと言う関係ということもありますし、それとあわせて調べ学習も入ってきているということで、どちらに比重があるのかよくわかりませんが、これをどのように運ばれているのか、物流ですね。私はこの物流についてもう少しきちんと考えなければならぬと思います。学識経験者の方もいらっしゃいますので、そのあたりを少し聞いておいてもらって、それについてはどうなっているのか。そのあたりお聞かせいただけますか。

紀田：学校貸出、団体貸出については、図書館と致しましても重要だと考えています。子どもの裾野を広げるということで、図書館として力を入れているということは自負しています。ただし今おっしゃられたように学校のモデル校事業等が始まり、去年から図書館の整備が始まっています。それに伴い、図書館としても各学校に呼びかけたというような形で対応させていただいており、その結果、増えていったのだと思います。

物流につきましては、確かに広いスペースがあれば融通もききますが、この八尾図書館の中で行なう限りは、難しい部分があります。お互いにいろんな状況がありますが、学校との方とも協力していただき、スムーズな物流ができるような形を考えていきたい。

柏木：本来、最初の方にも出ましたが、資料を増やすという観点から、人件費削減という観点からもう少し工夫されたいかがですか。例えば、返却ポストの回収とかについては、赤帽を使ったりというようないろんな工夫をされてはいかがでしょう。豊中なんかは学校間ですが、シルバーを使ってやっているようです。そういう人たちの雇用も含めてと言う意味で、安ければよいと言う意味ではありませんが、出来るだけ資料の方を重視してはいかがでしょう。

紀田：学校図書館が今後、充実していけば物流も盛んになってくると思います。その時点で、職員だけでなく、専門業者をお願いするとか、あらゆる方法を検討していきたいと思います。

柏木：議会で本来は言うべきことで、すみません。

本川：時間も経過していますが、特にご質問・ご意見はありませんでしょうか。今日はいろんな意見をいただきましたが、計画策定の中身はすでに検討に入っている部分もあるということでした。それと、資料ですが、今日は見やすい資料を作って頂いておりますが、いくつか注文も出ていますので、よろしく願いいたします。今日の議事につきましてはこれで終わります。

事務局の方から何かありますか。

紀田：ご報告になりますが、八尾図書館が平成16年度の「子ども読書活動優秀実践図書館」ということで文部科学大臣の表彰をいただきました。これは府下に先駆けて、「子ども読書活動推進計画」

を策定したり、病院へのサービス、日ごろの読書活動の啓発等が評価していただけたと思います。こういう賞をいただき、これを逆にプレッシャーと感じて、今後ますます裾野を広げるということに努めたいと考えています。これは地道な活動ながら一番有効な方法ではないかと考えています。今後とも図書館としても頑張っていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願ひいたしたいと思ひます。以上ご報告させていただきます。

本川：あとは特にありませんか。この場で特にご意見ありませんか。

隈：12pの予算を見ていて、修繕費が大きな額になっていますが、これは八尾図書館ですか。

紀田：雨漏りから揚水ポンプまで説明したらきりがありませんが、100万前後の修繕費が必要になっています。八尾図書館の再生も含めた中で、これだけ建物が老朽化してますよという形で、財政当局の方にも訴えていきたいと思ひます。

本川：他に特にありませんか。

紀田：次回の協議会ですが、10月21日(木)に、先進図書館の視察という形で行ないたいと考えています。行き先は追って報告したいと思ひます。新しく建った図書館、午前中ということで行きたいと考えています。予定のほどよろしくお願ひいたします。

本川：本日の協議会はこれで終わりたいと思ひます。どうもご苦勞さまでした。